スライド班大活躍

行動隊（港務）が現場巡回で情宣

〝人間はだれでも歩く〟〝子供たちをしあわせに〟と、港務支部行動隊では、いま各現場にスライド巡回班をくりだして、平和と勤評についての視聴覚情宣をおこなつているが、あたらしいこのこころみは現場に好感をあたえており、わかりやすいと大評判である。このスライド巡回は去る九月一日からおこなわれているが、約一カ月間にわたつて、全職場で上映する予定である。

人間は誰でも歩く

大牟田から福岡までの平和行進に港務支部行動隊からは九名が参加した。いまほど平和の問題がつよくさけばれているときはない。職場でもつと平和問題にとりくまねばならないことが痛感され、行動隊ではこの平和行進を機会に情宣活動を活発化することになつたまたこれと同時に、いまさかんに問題になつている「勤務評定」についても情宣をくりひろげることとなつた。

スライドは平和行進の記録を中心にした平和関係のもの「人間はだれでも歩く」と、勤務評定にはなぜ反対するかの「子供をしあわせに」の二巻である。

行進参加者で作成

スライドの作成を行動隊でとりあげ、作業をすすめたが、その中心となつたのは九名の参加者で、台詞もスライドもこの人たちの努力でつくられた。

なお、結成当時は八十名であつた隊員も、いまでは九十八名にふえているなどしだいに飛躍の一路をたどつている。

スライド上映は九月一日を皮切りに各現場で、昼休みや交替後の午後六時から七時までの一時間を利用しておこなわれている。

とくに行動隊ではスライド上映班を編成、とくに平和行進参加者も各班に編成されて、スライド上映とともに、平和行進参加の報告会をひらいたり、うたごえサークルの人たちも参加して、うたごえの指導をするなど、はばひろい情宣を展開している。

視聴覚による訴えは現場の人たちに理解もはやかつたとみえ、非常に好評で、つぎのようにいろいろと語つている。

とてもよくわかる

Aさん　平和問題がこれほど大切だとはあまり思いませんでしたよ。とくに、勤務評定については、新聞などに毎日々々のつているが、あまりピーンとこなかつた。ところがスライドで勤評とはどういうものか、そのねらいは何かが手にとるようによくわかつた。

地域でもやつて！

Bさん　こんな有益なスライドは職場だけでなく、地域でもどしどしやつてもらいたいです。家庭のちいさんやばあさんは、勤評といつてもわかりませんからこういう人たちにわからせるためにも、地域でやつてもらいたい。そしてはつきりと認識させたらどうでしよう。

なお、港務支部行動隊ではさいきん、職場交流や学習活動を活発にくりひろげているが、こんどのスライドもその一環としてとりあげたもので、これが終了したらこんどは、支部内の各職場をみんなによく知つてもらうために、職場の紹介をスライドにおさめることにしている。

いままで職場闘争をやつても、他の職場の実態をはつきりしらないため、自分たちの闘争だという実感が湧いてこず、このためにも他職場の作業の実態を知ることが大切だというのがねらいである。

万田駅でスライドを上映する行動隊

足あと

三池の機械化・合理化交渉も、微宵につづく微宵をかさねたが、遂見対立のまま去る十日ついに中断した。本号では、ヤマの機械化をめぐり、原始的なもつぱら人力によつて坑内で作業をしていた当時をふりかえつて、先人たちの惨苦をしのんでみることにした。

官僚から三井の手へと移つた三池炭鉱も明治をすぎ、大正時代へ入つても、まだまだ坑内は原始的なものだつた。当時は勝立、宮原七浦、大浦、万田などの各坑が活躍していた。とくに宮原坑には三池の囚治監の囚徒たちが坑内で働いていた時代である。機械化とは縁遠く体一つの激しい労働が毎日地下ではつづけられていたわけである。運搬は馬を用い、切羽も馬が主力で運搬にあたり、ゆるやかな坂ならトロ箱、急坂ならカラで一箱箱を運んでいた。万田坑には当時馬が八十頭おり、三交替で働かせられていた。支柱夫などは現場まで坑木をかついで行くのがたえられない労働だつた。こういう労働の上に、職制にたいしては絶対服従、もしも不平や文句でもらせば翌日からチョンと首がとぶという時代であつた。昭和五年ごろまでは女性も坑内兵児をしめて働いていたのである。夫は先山、女房は後向きという組も珍らしいものではなかつた。

労働時間は十二時間、全く忍従と苦難に彩られた先人たちの歩いた道だつた。

昭和の初期になるとようやく坑内にも新しい機械が入りだした。とくに波紋をなげたのが採炭ドリルで、それまでツルハシで掘つていたのが、これに変るやものすごい威力を発揮した。このため会社はバサリ、バサリと首切りをはじめたのだ。労働組合とてない当時は、いわれるまま、まるで薄氷をふむ思いであつたろうと想像される。とくに高齢者が被害をうけたのも、会社の本質がむき出しにされているのを物語るにふさわしい話だ。

坑内と機械化

坑内馬も大活躍した

万田坑のテビーポンプ（イギリス製）も坑内に入り、その威力にヤマの人たちがびつくりしたのも大きな話題であつた。時代のすすむにつれて大きくかわつてきたのは坑内電気と運搬であろう。新しい変圧器がつぎつぎとはいつてくるなど、坑内のオートメイションはすすんでいつた。

坑内作業の請負給はいまでもさかんに問題になつているが、当時でも、例えば間接夫などでもきめられた作業量は、多かろうと少かろうと係員から指示されたら、それを伝える先山のいうなりであつた。時間ぎりぎり一杯仕事をやつて、体も洗わず上へ昇る場合もあるなどしだいに飛躍の一路をたどつている。

スライド上映は九月一日を皮切りに各現場で、昼休みや交替後の午後六時から七時までの一時間を利用しておこなわれている。

とくに行動隊ではスライド上映班を編成、とくに平和行進参加者も各班に編成されて、スライド上映とともに、平和行進参加の報告会をひらいたり、うたごえサークルの人たちも参加して、うたごえの指導をするなど、はばひろい情宣を展開している。

視聴覚による訴えは現場の人たちに理解もはやかつたとみえ、非常に好評で、つぎのようにいろいろと語つている。

とてもよくわかる

Aさん　平和問題がこれほど大切だとはあまり思いませんでしたよ。とくに、勤務評定については、新聞などに毎日々々のつているが、あまりピーンとこなかつた。ところがスライドで勤評とはどういうものか、そのねらいは何かが手にとるようによくわかつた。

地域でもやつて！

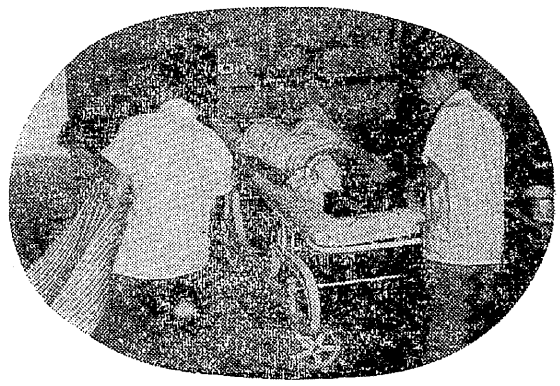
Bさん　こんな有益なスライドは職場だけでなく、地域でもどしどしやつてもらいたいです。家庭のちいさんやばあさんは、勤評といつてもわかりませんからこういう人たちにわからせるためにも、地域でやつてもらいたい。そしてはつきりと認識させたらどうでしよう。

なお、港務支部行動隊ではさいきん、職場交流や学習活動を活発にくりひろげているが、こんどのスライドもその一環としてとりあげたもので、これが終了したらこんどは、支部内の各職場をみんなによく知つてもらうために、職場の紹介をスライドにおさめることにしている。

いままで職場闘争をやつても、他の職場の実態をはつきりしらないため、自分たちの闘争だという実感が湧いてこず、このためにも他職場の作業の実態を知ることが大切だというのがねらいである。

定休日を汗の奉仕に

月曜会員が天領病院慰問



不幸にも病におかされ、不自由な入院生活をおくつている人たちをいくぶんでも慰めることができたらーと、炭鉱の厚生ドコヤさんたちで組織している月曜会では、さる九月八日天領病院を訪問、定休日を返上して半日を入院患者の散髪奉仕におくつた。

この日、月曜会々員約三十名は手に手に散髪用具を持参、関係者の指示で外科、内科眼科、皮膚科と、それぞれの病棟に分れて汗の奉仕をおこなつたが、この突然の奉仕者に患者はびつくり、はじめ仕上りの云々を心配していた患者たちも、その仕上りの立派さと親切さに驚ろき、われもわれもとつめかけて、約八十名の人たちがこの汗の奉仕をうけた。

美しくなつた顔をなでながら患者の一人は、さすがにそのうれしさと感謝の気持をつつみきれずまつたく感謝にたえません。入院していると散髪のできないのが何より不自由で、そのためかみてから、みんなで話し合つて決めなければなりませんが、また、やることにでもなれば会員全員が参加するようにやつてゆきたいと思います。

楽しい座談会

元気な選炭婦さん

古い炭坑節でもかならず選炭婦のおばさんたちがでてくる、歌のなかで躍動している。まさに炭坑で働く女性の代表だろう。

三川支部教宣部では選炭場で働くこの人たち（四十名）と、なるだけ多く話合おうと暇を見出しては出かけて行き、座談会をひらき、職場の苦情や、組合の情宣などおこなつている。

去る十日も座談会を十時の休みにひらき、いろいろ懇談したが、とくに間近かにせまつた旅行の件で話合つたが、選炭婦のおばさんたちはなかなか元気がよかつた。

〝共稼ぎ〟で討論

本所うたごえ　赤田温泉で

本所支部うたごえでは九月七日赤田温泉へレクリエーションをこころみた。全員自家用自転車でサイクリング、現地ではコーラス、スクーエヤダンス、ボートのりをおこない、午後三時ごろから約一時間にわたり座談会をかねた学習会をもようした。

テーマは「劣等感について」「共稼ぎについて」の二項目で、互いに意見を出しあい討論した。

まず劣等感については、女性側より「顔やスタイルで劣等感をかんじる」というのにたいし「男からみたら違つてくる。顔がみにくいから、スタイルが悪いからといつて悲観する必要はない。本人の心がけ次第で、内面が充実すればそれが表面にあらわれてくる。こういうことで劣等感に対処したい」などの答弁がでた。

共稼ぎでは、経済面だけでなく、女性がヌカミソ臭くなつてもらいたくない（女）、女も一個の人間として生活していくためには社会的に向上しなければならないから賛成（女）、もちろん夫にヌカミソ臭くなつてもらいたくないし、社会的にも向上してもらわねばならないので賛成（男）と圧倒的に共稼ぎに賛成だつた。

なお、本所うたごえでは来る十月に行われる九州のうたごえに出場するため、こんど練習にさらに拍車をかけることとなつた。

夜の街の探訪

大谷主婦達が敢行

大谷分会の主婦会では、さきに売春禁止法が実施されるや〝売春禁止法実施にともなう主婦の心構え〟と題して、地域座談会をひらき売春から防犯課長をまねき講身術までおそわるなど独自の活躍をつづけてきたが、こんどはさいきんとくに増えてきた犯罪が、夜の街と大きな関係があることなどからこれの探訪をこころみた。

分会ではことしのはじめアンケートを集録したが、そのなかで「酒を外で飲むのはどうしてよいか、なぜ家で飲まないか」などの項目をも出していたが、この機会を利用して夜のあやしげな盛り場や、屋台、飲み屋などをみておくのもとくに必要だとこの探訪行きを決定した。

一行は九月一日午後九時に地域を出発したが、物騒な夜の街のため荒尾署から婦人警官が三名つきそいでくるという周到ぶだつた。

この探訪を機会にこんど討議がかわされることとなるだろう。

三悪の根元

またアメリカの兵隊が罪のない日本の大学生を射殺した。

しかもその大学生が荒尾の人で、母一人子一人の親孝行者ときているから余計可哀そうで涙がでる。

独立した日本国内で、外国人のアメ公が実弾をつめて日本人をカービン銃の的にして虫ケラのように殺す、国民性がザンギヤクだ。

アメ公が日本にきていらい、ろくなことはない。職犯罪に政府をつくらせ、日本人同志にケンカをさせ流血の惨事をおこさせる。切つたハツタの映画を流行させ、暴力団を英雄とする。

貧乏人は死んでもしかたがないと親子心中を続行させる。

こんなことを考えると、三悪の根元はアメリカにあり、三悪追放はヤンキー・ゴーホーム（アメリカ人帰れ）に通ずる。

ちくらま談義

ある寸劇

ところ　大牟田駅

時刻　午後八時ごろ

登場人物　大人一人と子供二人

ものがたり

大牟田駅頭に小風呂敷を一つもつて、子供二人の手をひいて汽車の時刻を見ている人物があります。一見映画見物ともうけとれず、また夜逃げともうけとれません。

知人らしき者が問いました。

「何ンしよツとナ？」

彼は答えました。

「女房が病気で、あす、組合の仕事が休めんので、里に子供をあずけに行こツとタン」

怪しげな風呂敷包みを見せました。中には子供の下着が二・三着。

これぞ新版、梅田繁浜物語り

正体を現せ

大牟田市は市民と三井会社との問題がいろいろおきている。これに歩調をあわせて市会議員も市民側に革新クラブ、三井側に会社議員と町方議員がついている。

市会議員に立候補する際

「私は市民のみなさんの利益を守り、断固として闘います」

といつたが、これは

「私は三井さんの利益を守り、断固闘います」

ということになる。

市民の耳はフシ孔ではない。

「もう町方の議員にはたのめん」、「あツどま、金もうけや、わがためにならんと仕事ばせんとやん」

だんだんと化けの皮がはがれている。狸議員、狐議員正体をあらわせ！